

短歌十首①

組

番 名前

選んだ短歌 (PAGE57の短歌十首から一首選ぶ)

短歌の鑑賞

(どんな情景を思い浮かべたか。季節、時間帯、場面、どんな思いを込めたか。)

鑑賞の書き方の例

選んだ短歌「幾山河越えさり行かば寂しさのはてなむ国ぞ今日も旅ゆく」

カッコイイ短歌だと思いました。この人は何を求めて旅をしているのでしょうか。「旅ゆく」と言い切っているところが、肩で風を切っている感じがして素敵です。

また、「幾山河」が字余りなので、どこか不器用にあっちこっちに行ったりしてさまよっている感じがしました。

同じ短歌を選んだ人の鑑賞

(登校再開時に書く)

短歌十首② (創作)

組

番 名前

<p>1 普段の生活の中で感じたことや気がついたこと、印象に残ったことなどをメモする。 (簡条書きでも○)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・夜中に泣いていた子どもが、朝すやすやと笑顔で寝ている</li><li>・何もできないのに見ているだけで笑顔になる</li><li>・後少して勝てる試合に負けた悔しさ</li><li>・季節外れの猛暑</li></ul>
<p>2 伝えたいことのテーマ(中心)を決める 子どもへの思い</p>
<p>3 強調したい言葉、語句、使ってみたい表現技法</p>
<p>4 五・七・五・七・七で書いてみる</p>
<p>5 短歌を練り直す</p> <ol style="list-style-type: none"><li>①表現技法を使ってみる。 (観覧車桜の海をながめてる↓観覧車桜の海のがめかな)</li><li>②ことばの順番を変えてみる。 (夏の夜星がまたたく雨あがり)</li><li>③昔の言葉遣いで書いてみる。 (木枯らしに負けずにとんだ二重跳び ↓ 木枯らしにまけずにとびし二重跳び)</li></ol>
<p>1 普段の生活の中で感じたことや気がついたこと、印象に残ったことなどをメモする。</p>
<p>2 テーマ</p>
<p>3 強調したい言葉、語句、使ってみたい表現技法</p>
<p>4 五・七・五・七・七</p>
<p>5 最終短歌</p>

短歌十首③ (鑑賞)

組

番 名前

自分の短歌 (最終版)

短歌の意味、短歌に込めた思い (解説)

他の人の作品を鑑賞し、一番印象に残った短歌

印象に残った短歌

良さ

短歌の振り返り 感想

この单元を通じ、短歌の鑑賞・発表・創作を行いました。その感想を書きましょう。

--	--	--	--	--	--

くれないの二尺（六十センチ）ほど伸びている薔薇の新芽のまだ柔らかかなどげに、しつとりと春雨が降り注いでる。

その娘は今まさに二十歳である。櫛に流れる豊かで美しい黒髪に象徴されるよ  
うな、この誇りに満ちた青春のなんと美しいことか。

（故郷の）みちのくにいて、母は今死を待つばかりの身である。何としても生  
きている母の姿を一目でも見たいと思いつながら、故郷への道を急ぐ私である。

色鉛筆を削っていると、その赤い粉が若い緑の草の上に散り、心がひかれて寝  
転んで削ってしまうよ。

白鳥は悲しくないのだろうか。空の青さにも海のおおさにも染まることなく漂  
っていることよ。

不来方のお城（盛岡城）のあとの草原に寝転んで、大空に夢を託した十五歳の  
日。あの少年の頃が懐かしく思い出されることだ。

山道にのびてきている葛の花が踏みしだかれていっそう鮮烈な色をしているな  
あ。ああ、自分より先に、この細い山道を歩んでいった旅人があるのだ。

列車の窓から遠くに見える向日葵は、まるで少年が振っている帽子のようだ。

シャボンにまみれた猫が逃げていく。あらゆるものは刻々と息づき、永遠に同  
じものなどないのだ。

夜更けにまで見続けている顕微鏡に、これまでとは異なる奇妙な構造が観察さ  
れた。発見への期待が高まる。

